



ボランティア団体フェア「サマボラ2017！」開催

7月20日(木)・21日(金)の2日間、本学南大沢キャンパスのインフォメーションギャラリーにて、ボランティア団体フェア「サマボラ2017! ~知らない“自分”を探す夏~」を開催しました。

学内外のボランティア団体にブースを出展してもらい、学生がボランティアのことをより身近に感じてもらうことを目指したこのイベントは今年で2回目。今年も学生コーディネーターが企画・運営を担い、ブース出展に限らず、学生らしい様々な独自企画も行われました。

ブースを出展した団体は、2日間で合計14団体(学外団体10団体、学内団体4団体)。各団体の活動分野も「子ども」「障

がい児・者」「国際」「環境」「スポーツ」「路上生活者支援」「高齢者」「復興・防災」と多岐にわたり、幅広い学生が関心をもてる企画となりました。

ブース出展に加えて、「ポッチャ体験会」「オリンピッククイズ」「講話：私たちの防災と復興」「ハンドスタンプアート」の4つの特別企画も併せて開催されました。

多くの学生にボランティアを知ってもらえる機会となったこの企画。本センターの恒例行事として認知が広がるよう、更なる改善を行い、ボランティア団体と学生との繋がりを広げていきたいと思います。

ボランティアコーディネーターからのメッセージ

ボランティアセンターが開設され、2年が経とうとしています。学生の皆さんの主体的な参加や教職員、地域の皆さんの多くのご支援により、少しずつですが、首都大らしい取組が広がってきていると感じています。

私が初めてボランティア活動に参加したのは、中学3年生のときでした。少し話は遡りますが、私は小学生の頃から、地域の社会教育団体が主催する「子どもキャンプ」や「子どもスキー教室」に参加していて、その活動は“リーダー”と呼ばれる大学生のお兄さん、お姉さんが企画・運営を行っていました。テキパキと運営し、最終日には「帰りたくない」と思わせるほどの感動体験を与えてくれるお兄さん、お姉さんがとてもカッコよく見えて、「私も大きくなったら“リーダー”になりたい」と憧れをもっていました。

中学3年生になったある日、「あそびのリーダー募集」というチラシが送られてきました。見た瞬間、「私もあのときのリーダーになれるんだ!」と嬉しくて飛び上がり、早速、申し込みをして、研修を受講した後に、とあるプレイパークで、子どもたちと遊ぶ活動を始めたのが最初のボランティア活動です。

今思うと、「ボランティアをしたい」と思って始めたわけではないように思います。チラシにも「ボランティア募集」とは大きく書かれていなかったと思います。「ボランティアをしてるなんてスゴいね、偉いね」なんて、ときどき言われました。「そんなに偉いことはしていないし、あんまりボランティアをしているとは思っていないんだけどなあ…」とモヤモヤしたこともありました。「ボランティアなんて関心ない」「ボランティアってハードルが高い」と思っている人もいますが、私みたいに「やりたいことをやったら、それがボランティアだった」という場合もあると思います。

自由にテーマや対象や場所を選ぶことができるのがボランティア活動。きっかけや動機は何でもよいと思うのです。その活動を通して、どのように社会や自分と向き合うことができるか、そちらのほうが重要です。「ボランティアなんて無理」と敬遠せず、また、意気込み過ぎず、自分の関心のあることを切り口に社会とつながってみませんか?きっと新しい自分を発見することにもつながると思います。

ボランティアコーディネーター
足立 陽子



活動履歴

【4月】

地域ボランティアプログラム プレ企画

親子でタケノコ掘り

in 首都大・松木日向緑地

昨年度に続き、「地域ボランティアプログラム」のプレ企画として、近隣の小学校（柏木小学校・愛宕小学校・南大沢小学校）に通う児童とその保護者を招いたタケノコ掘りを実施。加えて、今年は障がい者自立支援団体「自立ステーションつばさ」の方々も招待。

ボランティアとして、29名の学生が活動をサポートしてくれました。

【5月】

1) 八王子地域合同学園祭 「第12回学生天国」

5/14（日）、八王子市が主催し、市内の様々な大学が合同で実施する学園祭「第12回学生天国」にて、「地域ボランティアプログラム」と「みなみおおさまカフェ」の活動報告を行いました。

2) 学生コーディネーター企画 「Greenフォト2017」

～首都大魅力再発見ツアー～

5/27（土）、ボランティアセンターにて学生コーディネーターとして活動する学生たちが企画した、学内散策＆写真撮影イベント。本学保有の美しい自然を体験してもらい、環境保全やボランティア活動に関心をもってもらうことを目的に企画・実施しました。写真撮影を行うにあたっては、本学の写真部より、ご指導いただきました。

3) スポーツボランティアプログラム プレ企画

「東京都障害者スポーツ大会 （陸上競技）」

5/27（土）・28（日）、本学から22名の学生が参加。知的障害部門では、受付係や計時係を担当。身体障害部門では計時係と投てき審判員の補助を担当しました。

【6月】

1) ボランティアプログラム 事前学習Ⅰ

（スポーツ・地域共通）

6/11（日）、今年で2年目となるボランティアプログラム。講師は、ボランティアセンターアドバイザーであり、人文・社会系社会学コースの室田信一先生にご担当いただきました。昨年度から引き続き参加している学生も、新たな参加者に向けて、自分たちが行ってきた活動の紹介などを担いました。

2) スポーツボランティアプログラム 事前学習Ⅱ

（→詳細）

3) 東京ラグビーファンゾーン2017

（→詳細）

スポーツボランティアプログラム



ボランティアプログラムの一つ、「スポーツボランティアプログラム」がスタートし、6月24日（土）に「事前学習Ⅱ」（事前学習Ⅰはスポーツ・地域共通）を実施しました。講師は、東京都障害者スポーツ協会の横田さん・市川さん、日野市社会福祉協議会の宮崎さんにご担当いただきました。横田さん・市川さんには、障がいの種類や障がい者スポーツの歴史、競技種目についてのお話と疑似体験等の実技を、宮崎さんからは、日野市での地域交流スポーツ「みんなといっしょの運動会」についての説明



←【東京都障害者スポーツ大会「スポーツの集い」】

重度知的障がい者の競技大会。学生12名がボランティアとして関わりました。プラカードをもって競技場所への誘導を担当。障がいのある方への理解や接し方を学びました。

NO.1
気になる！
東京2020競技
スポーツボランティアプログラムって？
スポーツを通して、様々な社会課題の解決を目指しています。
今回は、様々な社会課題の中から世界的なスポーツ大会の成功、社会参加の促進に焦点を当て、2020年に向けてのモチベーションアップを目的に、1年計画で東京2020オリンピック・パラリンピックを実施される競技を紹介していきます。

スケートボード
競技は「パーク(PARK)」、「ストリート(STREET)」の2種。
NEW!

7月15日発行
着実に迫る東京2020オリンピック・パラリンピック！
どんな競技が行われるか知っていますか？
全55競技、余すことなくご紹介いたします！
首都大学東京ボランティアセンター
スポーツボランティアプログラム

6月15日発行
6月15日発行
キャッチボール

ボッチャ
ボッチャは、重度脳性麻痺もしくは同程度の四肢運動機能障がい者のために考案されたスポーツです。
「ジャックボール(目標球)」と呼ばれる白いボールに、赤と青、それぞれ6個のボールを投げたり、転がしたりして、いかにジャックボールに近づけるかを競う競技

とボランティアとして活動するうえで大切なことについてお話いただきました。事前学習の後、現在12月末までに、2つのスポーツイベントの運営サポートに携わりました。

今年で2年目となるボランティアプログラム。昨年に引き続き今年も参加する学生が7名、今年から参加する学生が14名、合計21名で活動しています。

今年は2年目の学生が主体となって、学生オリジナル企画も実施中。東京2020大会にて行われる各競技を紹介するフリーペーパーを作成しています。



←【みんなといっしょの運動会】

日野市が主催する、誰もが参加できる運動会。10名の学生が参加し、競技補助と着ぐるみでの応援を担当しました。参加者が楽しむにはどうすれば良いか考え、工夫しました。

地域ボランティアプログラム



もう一つのボランティアプログラムである「地域ボランティアプログラム」。首都大の敷地内に広がる松木日向緑地をフィールドとして、多世代にわたる地域交流を目指すこのプログラムも今年で2年目。昨年度から引き続き参加している学生が「サポーター」となって、今年から入った学生に対し、先輩として様々なフォローができるようになりました。

指導にあたっては、こちらも昨年から引き続き、生命科学コースの加藤英寿先生と「ひなた緑地遊学会」の皆さんが担ってくださっています。



←竹を使った水鉄砲作成の様子。
基本的な作り方や水がよく飛ぶようにするための工夫を遊学会の方から教えてもらいながら、30個作成しました。



7月22日（土）は、事前学習Ⅱを実施。昨年の活動内容と、緑地&地域が抱える課題について話し合いました。また、当日、本学で行われた「竹林景観ネットワーク研究集会」を聴講。全国で竹林や里山問題に関する様々な取り組みが行われていることを知ることができました。

9月2日（土）と9日（土）は、2年目のサポーターが中心となり計画したオリジナル企画「サル山水合戦」を実施。地域の小学生とその親御さんを招いて、みんなで楽しく活動しました。



←地元の「愛宕小学校」の親子を招いて行った「サル山水合戦（水鉄砲大会）」の様子。大人も子どもも大学生も、みんなが楽しく遊べるイベントでした。

東京ラグビーファンゾーン2017



6月24日(土)、調布市の味の素スタジアム西競技場にて、「東京ラグビーファンゾーン2017」が開催されました。

このイベントは、2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップに向けて、ラグビーの楽しさ、面白さをより多くの方に知ってもらうという趣旨で開催されました。同会場で行われていた日本代表戦の観戦に来た方から地元の子供たち、国内外のラグビーファンといった多くの方が会場を訪れました。この運営ボランティアとして本学から11名の学生が参加。ボランティア用に渡された黄色のTシャツを着て、活動を行いました。

活動内容は、「入場門での参加者の誘導」「遊技コーナーでの案内係」「ラグビー体験コーナーの受付」など。入場門での参加者の誘導係は、会場を訪れた方と最初に接する活動なので、ベテランのボランティアと一緒に笑顔を決やさず活動していました。遊技コーナーの受付係



は、トランポリンやストラックアウトを担当し、待機している子どもたちが順番に楽しく遊べるよう、積極的にコミュニケーションをとっていました。ラグビー体験コーナーも、多くの子どもたちが訪れ、受付係は人の列を整理したり、子どもたちに安全装具を着せてあげたりしました。

今回のイベントは、ラグビーを知っている人にとっても知らない人にとっても、ラグビーの面白さを知ることができるイベントとなりました。



チャレスポ！TOKYO



9月18日(月・祝)、パラリンピック競技をはじめとする様々な障がい者スポーツが体験できるイベント「チャレスポ！TOKYO」が東京国際フォーラムにて開催され、本学から12名の学生が運営ボランティアとして活動しました。

アスリートとともにパラリンピック競技種目等の体験ができたり、オリンピック・パラリンピアンと東京都知事とのトークショーが行われるなど、東京都と東京都障害者スポーツ協会が主催するこのイベントは、障がいがある人もない人も、小さな子どもたちから高齢者の方まで多様な世代の人たちが2万人集まり、大盛況でした。

ボランティアスタッフは、朝のオリエンテーションを行った後、ピンクのTシャツを着て活動。本学の学生は、「車いすテニス・車いすバドミントン」「車いすバスケットボール・ウィルチェアラ

グビー」「ペガボール・車いすレーサー」の3つの体験コーナーを担当。それぞれ受付で体験人数の調整をしたり、待機列の整理、終了後のスタンプ押印、ボール拾い、コートでの整備、声をかけて応援するなど、参加者が楽しめるように笑顔で盛り上げていました。



【7月】

- 1) 地域ボランティアプログラム
事前学習Ⅱ
(←詳細)

- 2) ボランティア団体フェア
「サマボラ2017！」
(←詳細は表紙を参照)

【9月】

- 1) 地域ボランティアプログラム
サポーター企画「サル山水合戦」
(←詳細)

- 2) スポーツボランティアプログラム
東京都障害者スポーツ大会
「スポーツの集い」
(←詳細)

- 3) チャレスポ！TOKYO
(←詳細)

【10月】

- 1) スポーツボランティアプログラム
「みんなといっしょの運動会」
(←詳細)

- 2) 地域ボランティアプログラム
「松木日向緑地見学と里山に関する座学」

10/14(土)、これから活動する場となる松木日向緑地の見学と里山に関する座学を行いました。

～今後の活動予定～

【11月】

- 1) 大学祭 ボランティアセンター
学生コーディネーター企画
- 2) 「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座
- 3) 1 dayボランティア

【12月】

- 1) 留学生おもてなし高尾山ツアー
- 2) 地域ボランティアプログラム
「竹林整備」

【1月】

- 1) 地域ボランティアプログラム
「竹林整備・竹炭づくり・体験会」
- 2) スポーツボランティアプログラム
東京都障害者スポーツ大会
「車椅子バスケットボール」

【2月】

- 1) 地域ボランティアプログラム
事後学習
- 2) スポーツボランティアプログラム
事後学習
- 3) 東京マラソン2018

【3月】

- 1) 活動報告会

※「活動履歴」に載せた活動はすべて、本センターのホームページ(右のQRコードから)に、より詳しい記事を掲載しています。是非ご覧ください。



新たな学生コーディネーター紹介

～6月から3名が、11月から3名が加わり10名体制になりました！～

首都大学東京ボランティアセンターは、教職員に加えて、学生も「学生コーディネーター」として運営に参画しています。学生目線からボランティアの啓発・促進を目的に、ボランティアを希望する学生の相談に乗ったり、啓発するイベントを企画したりしています。ぜひ、お気軽に学生コーディネーターに会いに来てください。

～学生コーディネーターからのメッセージ～

後期から学生コーディネーターになった、1年の大貫です。大学に入ったら色々なボランティアに参加するぞ！と思いつつ、気が付いたらスポーツ関連のものが楽しすぎて、そればかりに参加していました。スポーツって観ているだけでも元気がもらえていいなあと改めて思います。

私たち学生コーディネーターは、後期に私含め3名が加わり、10人体制で活動しています。現在行っている活動を更に良くすることはもちろん、新たな活動も思案しつつ、皆さんにボランティアを楽しんでいただけるお手伝いをできたらと思います！これからもよろしくお願いします。



ボランティア募集情報

※いずれも詳細や申込みは首都大学東京ボランティアセンターまで

町田市障がい者青年学級

【主催：町田市生涯学習センター】

活動日：公民館学級・・・第1・第3日曜日 9:30～17:00

土曜学級・・・第2・第4土曜日 9:30～17:00

スタッフ会議・・・毎週木曜日 19:00～

場 所：町田市生涯学習センター（町田駅より徒歩3分）

活動内容：障がいのある青年の方が音楽・スポーツ・演劇・創作活動などとおして、「生きる力・働く力」を獲得するために、活動を共にし、サポートする。

東京ストリートカウント2018冬

【主催：ARCH】

活動日：①2/16（金）深夜24:30～翌5:00

②3/9（金）昼間

③3/9（金）深夜24:30～翌5:00

場 所：①豊島・文京・台東・墨田・江戸川区

②多摩川沿い

③大田区ほか

活動内容：市民参加によって深夜の路上ホームレス人口を調査する。結果は、政策提言等につながる。

ボランティアセンターからのお知らせ

第4回大学生ボランティア活動展&イベント2018

～被災地と多摩地域の架け橋～

- ◆活動パネル展「私たちが見た現場と、感じたこと」
日時：2018年2月14日（水）～18日（日）常設展示
会場：イオンモール多摩平の森 3F プティ・マイン前
内容：大学生や日野市の中学生たちの活動をパネルで紹介
- ◆震災の教訓を生かそう！「東北応援物産展」&「イベント」
日時：2018年2月17日（土）・18日（日）12:00～16:00
会場：イオンモール多摩平の森 1F 陽だまりのアトリウム（物産展）、3F イオンホール（イベント）
- ◆参加大学
首都大学東京、中央大学、明星大学、実践女子大学、法政大学、東京薬科大学
- ◆首都大からの参加・協力団体
・東日本きずなプロジェクト
・災害復興・都市防災研究室（都市システム科学域・市古研究室）
・ボランティアセンター学生コーディネーター

大学生ボランティアの活動報告会&野村忠宏さんによる講演会

- ◆日時：2018年3月10日（土） 12時30分～16時30分
- ◆場所：首都大学東京 南大沢キャンパス 講堂小ホール
- ◆内容：
 - ①ボランティア活動に取り組んだ首都大生による活動報告会
発表：ボランティアプログラム参加学生
ボランティアセンター学内登録団体
学生コーディネーター
 - ②野村忠宏さんによる講演会
講演テーマ：折れない心
（野村忠宏さんによる講演会は15時00分頃の予定）
- ◆申込方法：
下記の必要事項をE-mail、FAX、電話のいずれかの方法でボランティアセンターまでお伝えください。
 - ①お名前・②ご所属（ある方のみ）
 - ③メールアドレス（お持ちでない方は電話またはFAX番号）

<編集後記>

2017年ももうすぐ終わりです。前期総集編の今号ですが、ずいぶん発行が遅れてしまいました。申し訳ありません。ボランティアセンターでは、今年もたくさんの出会いがありました。本当にありがとうございました。

2018年の目標は決まりましたか？私は、来年こそは英語の勉強をしたいと思っています。毎年、そう誓うのですが・・・皆さんも学生時代の今を大切に、様々なものを見て聴いて読んで出会って話して、たくさんチャレンジしてみてください。何をしようか迷ったら・・・ボランティアセンターへ！

<編集・発行>

首都大学東京ボランティアセンター
〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1 1号館1階
電話：042-677-1354（直通）／内線2260
FAX：042-677-1812／内線2249
E-mail：tmu-volunteer@jmj.tmu.ac.jp
URL：http://www.gs.tmu.ac.jp/gakuseika/12_volunteer/
発行日：平成29年 12月